

令和8年産主食用米の生産の目安について

1 要旨・目的

本県の令和8年産の主食用米の「生産の目安」を、広島県農業再生協議会が設定したので報告する。

2 現状・背景

都道府県別の主食用米の生産数量目標の配分が平成30年産から廃止され、広島県農業再生協議会では、需要に応じた主食用米の生産を目指すため、県域で生産すべき量を「生産の目安」として設定し、毎年、公表している。

3 概要

(1) 「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」（令和7年10月31日 国公表）

- 国においては、需給均衡が図られる令和8年産主食用米の生産量の見通し（生産数量目標に代わる指標）を711万トンとした。これとは別に、政府備蓄米として買入れを予定している21万トンを加えると732万トンとなり、令和8年産生産量の総量は令和7年産生産量見通しの748万トンに近い水準となっている。

（※ 令和7年産では政府備蓄米の買入れが中止）

- 令和7年産主食用米の予想収穫量は、米価が高く推移した影響等もあり、全国的には、昨年と比較して作付面積が108,000ha増加したほか、生産量も67.6万トンほど増収の746.8万トンの見込みである。

（※ 作付面積及び予想収穫量は、令和7年10月25日現在）

- 中長期的にみると主食用米の需要量が減少傾向で推移していたが、近年、需要が回復基調となっている。一方、令和7年産主食用米の増収に加え、政府備蓄米の放出に伴い、令和7年6月に155万トンまで減少した民間在庫量は、令和9年6月には245万トンまで増加し、適正在庫量（180～200万トン）を上回る見通しである。このため、令和7/8年の需要量は711万トン、令和8/9年の需要量は711万トンと見込んでいる。

	令和7年産 生産量見通し	令和7年産 予想収穫量	令和8年産 生産量見通し	令和7/8年 需要量	令和8/9年 需要量
生産量	748万トン	746.8万トン	711万トン	711万トン	711万トン

※ 令和7/8年：令和7年7月～令和8年6月、令和8/9年：令和8年7月～令和9年6月

※ 需要見通しの数値は、昨年度と比較するため、玄米ベースの上限値を活用し算出。

(2) 広島県の令和8年産主食用米の「生産の目安」

- 県域での「生産の目安」は、国の示す「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」の需給見通し等を参考にした上で、県内の実需者からの聞き取りによる「県産米の需要見通し」や県内の備蓄用米販売実績等を勘案しながら設定する。
- 令和7年産の収穫量については、米価上昇の影響により、県内の主食用米の作付面積が増加に転じた（昨年：20,100ha）ことや収量が増加したため、平成30年以降、初めて生産の目安を上回る見込みであるが、県民消費の需要に対しては不足している状況にある。

- 令和8年産の主食用米の目安は、令和7年産の「生産の目安」から1,001トン増加した109,957トンとし、今年産の予想収穫量とほぼ同等の量とする。

	生産の目安 (7年産)	予想収穫量 (7年産) ①	生産の目安 (8年産) ②	②－①
生産量	108,956 トン	109,900 トン	109,957 トン	+ 57 トン
面積換算値	20,635 h a	20,200 h a	20,825 h a	+ 625 h a

※ 目安及び収穫量は比較・算定の都合上、従前のふりい目幅1.70mmベースで表記。

※ 面積換算値は、県平年収量で生産の目安(数量)を除し算出。

(3) 今後の対応

県産米の供給量を安定的に確保するためには、更なる需要に応じた生産体制の維持を図る必要があり、市町やJAグループ等と連携しつつ、高温耐性品種や多収品種への作付誘導を行うとともに、気候変動や病害虫の発生にも対応できるよう技術指導を徹底していく。